

令和 4 年度 第 1 回高齢者福祉部会 会議内容概要

日 時	令和 5 年 2 月 6 日 (月) 午後 2 時～ 3 時 4 0 分
開催場所	近江八幡市総合福祉センター 1 階ホール
出席者	塚本部長、西川委員、岡田委員、東森委員、石黒委員、大西委員、谷委員、中島委員、中村君枝委員、奥野委員、森田委員、安部委員 計 1 2 名
欠席者	小林委員、柳委員、中村公彦委員、森村委員
傍聴者	なし
事務局	長寿福祉課、介護保険課
議事事項	報告：高齢者生活支援サービスの実施状況について 審議：第 8 期総合介護計画具体的な取組状況と今後の方向性について (高齢者福祉部会関係分)
内 容	<p>○開会あいさつ (塚本部長)</p> <p>○配布資料確認、議長選出</p> <p>○議事事項</p> <p>【報告事項】 高齢者生活支援サービスの実施状況について 事務局から、高齢者生活支援サービスの事業内容及び実施状況について報告を行った。</p> <p>【審議事項】 第 8 期総合介護計画 具体的な取組状況と今後の方向性について (高齢者福祉部会関係分)</p> <p>事務局から、「第 4 章 施策の展開と目標」の中の高齢者福祉部会に関係する取組について、取組内容とその結果・効果や今後の方向性に対する意見を求めた。</p> <p><主な意見等></p> <p>① 方向性 1 生きがいづくり、活躍の場の確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブに加入する方が減っている。今の活動等、現状から大きく脱却して欲しい。 ・ 今は多様な繋がりが広がり、老人クラブ一つに集中するということがなくなってきたと考えられる。 ・ まちづくり協議会のような地域の組織で高齢者が生きがいを持って活動している。地域の一役割を担っていることが大きい。高齢者が意欲や役割を持つことが大事であり、そこから参加型の意識が高まる。 <p>② 方向性 2 介護予防の拡充による健康寿命の延伸について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動手段は高齢者等で支援が必要な方々の課題であり、公助と互助の取組両方を絡めて進めないと課題解決に繋がらない。まちづくりの中でできる取り組みを地域から発信して、良いところは他の地域にも少しずつ広げていければ良い。 ・ 地域ケア会議や訪問の事業など、様々な事業で専門職がもっと関わっていける

現場をつくっていただいて、現場で人材を育てていきたいと思っている。

- ・ 地域ケア会議について、公的な横の繋がりを高めていく会議であるとともに、圏域レベルで地域課題を出し、地域包括を中心に地域の方や生活支援コーディネーターと共有化を丁寧におこなっていくことで、生活支援・介護予防・互助のネットワークが押さえられて、公的なサービスが結びついていくので、しっかりやっていくことが大事である。

③ 方向性3 安心して暮らせる環境やしきみづくりについて

- ・ 生活支援サービス全般について、困っている人に必要なサービスが繋がるよう、所得要件等の基準を見直す時期が来ているのではないかと思う。
- ・ 所得の基準については、自己負担無だけではなく、若干の負担があってもサービスを広く利用できるようなしきみを考えていくべきかと思う。
- ・ おむつの支給事業の支給額について、以前に使用量の調査をした結果に合わせて現在の量を調整されているが、物価上昇等で現状も変わってきているため、実績ベースを再度積み上げ、それを根拠に評価する方法もある。
- ・ 行方不明高齢者の捜索は時間との勝負であり、広く多くの人たちに情報を流していくことが有効である。SOSネットワークやタウンメールの配信、自治会、まちづくり協議会との連動など、しきみをうまく結びつけて大きなネットワークにしていけると良い。
- ・ 制度というのは、人に合わせていくべきものである。位置情報提供サービス(GPS)について、利用が少ないのであれば、制度内容を検討いただきたい。
- ・ 介護者の認知症に関しての理解度は差がある。認知症と介護が結びついていない方もおられるので、認知症の理解と含めて制度を使えるしきみにしていくことが重要。
- ・ GPSが効果的に活用されるように、要介護の方の利用状況を参考に、本人に持ってもらえるための工夫や使い方も家族等へ丁寧に伝える必要がある。
- ・ 住民主体のサービスとして、どうやって担い手を作っていくか、どうように増やしていくか、既に取り組んでおられる方を参考に組み立てると良い。
- ・ 既に実施されている取り組みに結びつけて広げていくと進めやすい。
- ・ 支援者、協力者を広げていく しきみづくりが支え合いのまちづくりになっていく。自分たちのまちを自分たちで支えていくということを意識付けて地域で取り組めることが一番良い。成功事例を出しつつ、そういったものを他の地域も真似して取り組めるしきみを作ったり、自分たちの役割として認識を持ってもらい、地域へ入っていく しきみを結び付けるのも一つである。
- ・ 介護者の認知症に関しての理解度は差がある。認知症と介護が結びついていない方もおられるので、認知症の理解と含めて制度を使えるしきみにしていくことが重要。

○その他 特になし

○閉会あいさつ (西川副部長)

